

## “手ごわい”夫がいるからこそ、前向きに。

熊本教会 坂田和子さん

坂田さんは50年近く連れ添う夫との関係に悩んでいた。夫は58歳で仕事を辞めた途端に家事の一つひとつに文句をつけるほど口うるさくなり、諍いが絶えなくなった。しだいに会話がなくなり、10年近く家庭内別居ともいえる状態のとき、仏教を学ぶ仲間たちと、「朝に夫の名前を呼んであいさつする実践」を行うことになった。しかし、恐る恐るのつぶやきに近いあいさつは無視されっぱなし。相変わらず小言もいわれて心が折れそうになるが、共に実践している仲間の存在が支えとなって続けられた。3ヶ月程たつと、いつのまにか夫と天気やテレビの話題で会話を交せるようになり、家族が穏やかな気持ちで過ごせる日が増えていた。この実践は一年あまり続いているが、まだ夫からあいさつが返ってきたことはない。だが、そうした“手ごわい”夫がいるからこそ、真剣に努力できるのだと前向きに思い、いつか心から感謝を伝えられるようこれからもあいさつを続けていく。



## 仏の教えを習い、学ぶ

学校などで、知識を得るために勉強することを「学習」といいます。一方、法華経の「方便品」には、「学習」とよく似た「習学」という言葉が見られます。

「諸仏の法是の如く 万億の方便を以て 宜しきに随つて 法を説きたもう 其の習学せざる者はこれを曉了すること能わじ」。仏は、たくさんの手だてを使って、常にそれぞれの人にふさわしい法を説いているのですが、「習学せざる者」は、そのことに気づくことができないということです。逆にいうと、「習学」をすれば、いつでも、そのとき自分に必要なお諭しに気づけるといことです。

ただ、「習学」は知識を得るものというよりも、実践を繰り返すなかで「仏の教えにそった生き方を身につけていく」ものです。たとえば、身近な人と仲たがいをしたとき、相手を責める前に「思いやりの足りなさを教えられているのかな」と学ぶ気持ちになると、素直に謝ることができるようになります。素直に謝ることができるようになると、素直に謝ることも、そのことから「自分はいま、何を教えられているのか」を学び、前向きな実践につなげて、その生き方を自分のものにしていくのです。

# 立正佼成会